婦人と新社會

山田わか主筆

四月號

有用な人間と無用な人間

家族制度と現代の結婚

勞働の解剖

祖先崇拜の米國

最近の世界思潮

青年時代の快樂主義◎コントの政治及び社會哲學◎進歩の法則◎進歩の問題◎革命の理論◎性慾の抑制と否定◎犯罪問題としての私生兒の扱◎兒童保護問題◎日本の家族制度◎婦人の呪ひ◎心理解剖と云ふ名稱に對するアロテスト◎田舍の宗教化◎世界平和の基礎

婦人運動者最近の活動に就て

女學校卒業期にある娘を持つ親心

寂しき春◎議員政治に附て

教育社會學講話

每月一回一日發行　第三十八號　大正十二年四月一日發行

山田わか著

戀愛の社會的意義

○四六特三百五十頁　定價金貳圓○
○總クロース美本　送料金拾五錢○

再版

目次大要

富を造る事と幸福を造る事——戀愛と結婚——戀愛に對する男子の態度——菊榮氏の「女も進んで求婚すべし」に附て——結婚道德の一ツ——墮胎に附て——戀愛の自由と本能——女子敎育の基調——産業機關は臺所のため——戀愛と藝術——家庭を追はれた産業婦人——婦人運動の歸着點——メレデスの靈肉觀——母と社會政革——婦人の智的生活——禽獸の親子關係（其他十七問題）

東京市四谷區南伊賀町四十一番地
婦人と新社會
發賣所
振替東京五三六八八

婦人と新社會

四月號

無用な人間と有用な人間

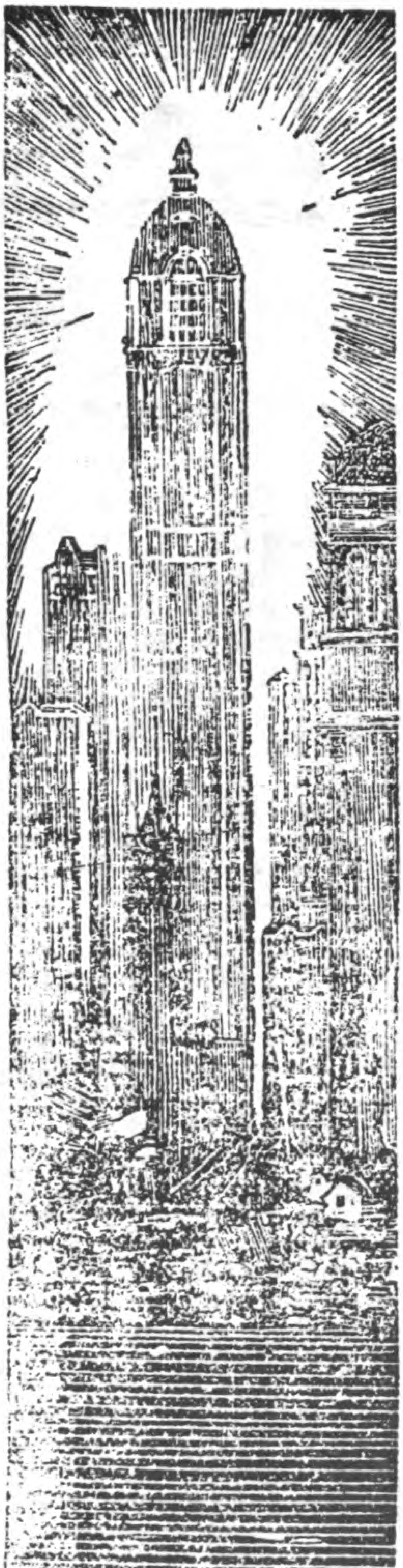
無用な人間を有用な人間にしようとする企ては、實際的にも理論的にも、一個人の慈善事業である代りに、社會的の救濟組織を採用しなければならない。立法に於て、行政に於て、教育に於て、衛生に於て、其の方向に進みつゝあるにはあるが、まだ〳〵其れが餘まりに不充分であることは事實である。

同時に又、社會的救濟を待つ迄もなく、自己の生活を改善する可能性を持つてゐる者も、上ッ調子な社會運動が其可能性を磨滅させてしまつてゐると云ふ事實のある事をも、注意深い觀察家は承知してゐる。

今日の產業的不調和は、社會の構造を建て直せば取り除かれると云ふ嘘の議論に一部の人は心醉してゐる。けれども、何時の時代にも社會には比較的無用であり、そして、其のために貧乏してゐると云ふ人間がある。で、さう云ふ人間を出來るだけ有益な人間と爲し、働かせると同時に充分なる報酬を與へるようにする必要があるが、さうするには、名は何であれ、それ等の人々を一部の人々乃至は國家に實際上服從させることである。

幾人かの人々は確かに生れながらに進歩的で創造的で勇敢で自治の精神に富んで居て社會のために有益な人間である。けれども、大部分の人間は、生れたまゝでは自治の精神にとぼしく進歩的でない。さう云ふ人間が有益な、自己としても愉快な根本的に自由な人間となるには外部からの訓練が必要であり、其の訓練を受けさせると云ふことは社會に服從させることである。

生れながら社會的に有益な人間と、捨て、置けば無益な人間も訓練の仕方によつては有益な人間に爲り得る者があると云ふことを今迄社會は無視してゐた。で、これは法律を守る人間と守らない人間則ち犯罪人との間に嚴格な區別があるように明らかな事實だが、併し、人は其れを認めない。此の事實を認めることが社會改善の一步である。



家族制度と現代の結婚

一體、完全に近い男と女が結婚して造つた家庭に於ては、權利とか義務とか云ふものゝ存在する餘地がありません。お互ひに自分の相手を自分のベターハーフであると信じて相愛し、相信賴してゐる二人の間には愛と犧牲こそ存在してゐますが主張する權利も感ずる義務もありはしません。

愛すればこそ、相手に不都合を與へまいとして働く、苦痛を與へてはならないと思

つて自重する。相手の幸福を見て自分の幸福とし、相手の苦痛を自分の苦痛と感ずる夫又は妻が其の夫に對し又は妻に對し主張する權利も感ずる義務もある筈がありません。

相手がらくでなしで自分の配偶を配偶として取り扱はず、果すべき義務も感じず、我がまゝ勝手なふるまいをして周圍に不都合を與へるので、此處に相手なる者の權利の主張と云ふことが始まるのです。ですから、權利の義務のと云ふ言葉が發せられる時には、既でに喧嘩狀態に這入つてゐるのであることを承知してゐなければなりません。

誰でもが渴望してゐるやうな優しい有益な愛は權利だの義務だのと言ふようないかつい殺風景な言葉には戰慄を感じるでありませう。

女權擴張と云ふような言葉に對して一種の侮蔑と憎惡の念――理窟はそれに違ひないがどうも不快だと云ふ感情――がいつもからまつて居るのは、こう云ふ處から來て

ゐると思ひます。つまり、萬人が有識無意識のうちに理想とする女性は俗惡な權利義務と云ふようなことに超越した愛の權化であるからでせう。

理想的な夫婦、つまり、妻は權利義務と云ふようなことに超越した大きな愛の所有者であり、夫は其の愛の價値を知り、妻を愛して居ると同時に尊敬してゐるならば、此の夫婦のためには、我が國の家族制度が何であらうが、妻に財產が無からうが親權――子供が出來た場合に――が無からうが何等の痛痒も感じる筈がありません。夫婦の間の愛情と理智が其の時の事情が許す範圍内に於て相互の利益を最上に計つて置くに相違ありませんから。

處で、世間には不完全な俗惡な利己主義的な人間が餘まりに澤山あります。我が國の民法が家族制度を制定して一家の夫であり父である男子に戸主權を與へ、特種の權利を認めてあるのを利用して、妻及び子供に對して我意を通し、妻及び子供の存在を無視するので此處に問題が起りました。

夫でぁり父である男子が情に厚い公平な人であるならば、彼を一家の代表者とし家長として置いても妻を始め家族の老人幼兒に至る迄、便利こそあれ何等の不都合がありません。けれども、彼が一家を統卒し一家の幸福を計らうとするよりも先に、自分ばかりが人間であり、其の家は自分自身のものであり、妻を始め家族の全部が自身の所有品ででもあるやうに大それた考へを持つようになつたので、其處で、妻の權利だの子の權利だのと云ふようなことが叫ばれるようになつたのです。

我が國の民法中に制定されてある家族制度と云ふものは今日に於ては事實上其の片端が崩潰しつゝあると見て差し支へないでせう。

まだ〳〵今日の婦人の大部分は不完全であります。同時に、男子の大部分も不完全であります。どちらもが不完全であるのに、其の不完全な男子に一家族に對する一切の權利を與へて婦人を支配させようとする處に大きな無理があり、從つて、悲慘事が續出します。昔の婦人は理が非でも男子に服從して居ることを以て美德と考へ、持つ

て生れた運命として觀念して居ましたから其れで納まつてゐました。けれども、今日に於てはさう云ふ盲從の無意義なこと、馬鹿々々しいことに氣付く婦人が日に月に增加しつゝあります。そして從來の家族制度を破壞しつゝあります。

家族制度其のものが惡いのではない。此の制度を制定した精神が時勢に離れてしまつて居るのです。人種が存續する限り家族と云ふものも存續して行きます。家族と云ふものが存在して居る限り家族制度と云ふものは必要でありませう。人間が食を求むると同じように異性を求めてゐる間は、男女の同棲と云ふことが實現します。男女が同棲すれば必ず子供が生れます。其の男女と子供の一團が一家族である以上、そして人間が必ず其れを繰り返へし〳〵實行して居る以上は其の家族に付て法律上何等か定むる處がなければならないのは理の當然であります。

ですから、現存の家族制度が崩潰したからと云つて、家族其のものが無くなつてしまうと云ふわけのものではなく家族のかたちは永久に此のまゝでよろしいし、且つ又

よいと云つても惡いと云つても此のかたちが造られて行くでありませうが唯不完全な男子に戸主としての特種の權利を認めて置くこと、それから、もう一つは死んだ祖先の意志を重く、生きてゐる子孫の意志を輕く見ることが惡いのです。國民の智能が如何にも未熟である時分にはとにかく秩序と云ふものを造るのが急務ですから、其の秩序を立てるために從來のやうな家族制度も一時は必要であつたでせう。けれども、今日の程度に迄智能を發達させて來た現代人にとつては其れは唯害あつて益がないと云ふことになつてゐるのです。

ですから、死んだ祖先を拜む代りに——と云つて祖先をないがしろにする意味ではないことを斷つて置きます——子孫を尊重し、男子を家長とし、家族に對する一切の權利を其の家長の手に歸して置くことの代りに主婦とし、母としての婦人の權利を認めると云ふ風に、家族制度の精神を取り代へて行けばいゝのです。

處が、今日迄の所謂女權主義者は、從來の家族制度が餘りに婦人を虐げて居るのに

心が亂れて、其の家族制度を呪ふの餘り家族其のものをも、自己の進步の障害物だとして呪つてゐました。從つて、其の家族の安住所なる家庭を婦人のための牢獄だとして罵つてゐました。

所謂女權主義者は自己の又は社會の進步向上を計るために家庭內に閉ぢこもつて育兒などにはかゝはつて居られないと叫びました。けれども、彼女等は、親に對する子供、子供に對する親の關係が、人間生活乃至社會生活の根本となつてゐるものであり社會員としての個人と個人との關係は家庭に於ける親子關係の反映であると云ふ處に氣付かずに居ました。第一、人種が繼續してゐると云ふこと、人間同志の交際と云ふこと、且つ又、私共の精神生活と云ふものゝ大部分も此の親子關係から始まつてゐることを忘れてゐました。親子關係と云ふことは私共の心からも肉體からも斷じて切り離すことの出來ないものであるにも拘らず、今迄の女權主義者は個人の權利と云ふものに眩惑して其の親子關係を輕視してゐたことはむしろ笑止でありました。

ですから、今迄の婦人論者が家族制度を呪ひ、家庭を破壞しようと傾いて居たのに反して、これからの婦人論者は、如何にして其の家族制度の精神を入れかへ、如何にして家庭生活を圓滿に營み、社會生活に反映して行く親子關係を全ふすべきかを考ふべきであります。

子供を一社會員として優良な人物と成さうとするに先づ第一の必要條件は家庭が圓滿でなければなりません。そして、家庭の圓滿と云ふことは其の家庭を造つてゐる夫婦が相愛して居なければなりません。そして、夫婦が相愛するには眞面目な戀愛を基礎とした結婚でなければなりません。

けれども、從來の家族制度は若い者の戀愛の自由を認める處ではなく、むしろ、それを罪惡視してゐました。つまり、次代の善のために今生きてゐる若い者の意志を無視して其の家を創立したけれども死んだ祖先の意志を繼承して結婚を斷行させました。此處に、自己に目覺めかけた現代人がどうしても承諾出來ない無理があります。そして

此の無理が從來の家族制度を破壞しようとする最も有力な要素となつて居ます。

現代人のためには誠に不合理な家族制度があるために、妻は夫に對し、子は親に對し、すさまじい反抗心を今は造つてしまつてゐます。勿論、昔の家長が一家族を充分に扶養してゐたのに反して、今の家長は經濟組織の變遷があつたために一家族を充分に扶養しきれなくなつてゐることにも大きな原因があります。

いづれにしろ、夫婦並びに親子が相反撥してゐると云ふことは個人の幸福及び社會の安寧と云ふ見地から決して輕々に見過してはならないものであります。

そして、其の反撥心を除去するには、其の反撥心を起させた無理と云ふものを先づ除去しなければなりません。

つまり、昔の人間を律してゐた制度には斷然たる改良を加へる必要があるのです。

何十年前か、又は、何百年前かに生きてゐた祖先の意志を尊重する代りに、現在生きてゐる青年男女の眞面目な健實な意志を基礎に結婚が成立するならば、多くの場合

其の家庭は圓滿で健實であり、其處に生れる子供は愛に豊かな兩親に保護され導かれて優良な社會員となるために成長して行きます。

此處に於て、私は、一家庭内に於ける老人に付て少しばかり考へて置かうと思ひます。

從來の家族制度が一家族内の年長者に絶大なる權利を附與して居たのに對して、其の制度に異常な反抗心を持つてゐる所謂新しい人々は、次代即ち我が子と云ふことに付て考へて居なかつたと同じように家族内の老人に付ても何等考へる處がありませんでした。

子供が成長して行くに從つて兩親は老ひて行きます。子供の心身の能力が增加して行くに從つて親の心身の能力は衰へて行きます。或る時期に於ては、親と子の心身の能力がほゞ平均することがあるでせう。けれども其の時期を通過すれば子は益々強くなり、親は益々弱くなつて行きます。

こうなつた時に、子供が圓滿な家庭に於て圓滿な人格者として一人前になつてゐるならば、幼時自分が親に世話されたと同じような態度で老いた兩親を世話するでせうけれども、親が俗悪な個人主義的思想に毒されて我が子を我が子として取り扱はなかつたならば其處に眞實の無形の親子關係が成立してゐませんから、子は老いた親をかへりみないでせう。

子が年老いた親を敬い、いたわると云ふことは人間界にのみ存在する特種な現象であります。人間以下の動物界、及び、多くの野蠻人界に於ては、年老いた親をいたわると云ふ習慣がありません。ですから、理窟は何であれ兩親を無視しようとする傾向は人間進步の逆戻りであると云ふことを私共は承知して居なければなりません。各文明國に於ける老年者保護の施設は前述の自然の親子關係を道德化したものであります。

家族制度は、老いて弱くなつた親を世話する義務を子供に負はせてゐますが、これ

は正當なことです。淋しく弱い老親を世話することは最も正當な最も美しい、前にも云つた通り人間界にのみ見られる現象で、立派な道德の一つです。現在の慘酷な生存競爭の狀態の中に美しく光つてゐる人間の德の一つです。此の德に對して人は何處迄もあらゆる奬勵と輔佐とを與ふべきです。

若い者が老いたる兩親に盡すことは、一見、彼が子供の時分受けた世話に對する返禮のやうに思へます。けれども、これを生物學上の見地から見ると其の結論には大きな差があります。なぜなら、兩親が子供を世話することは人種繼續上必要であるに反して老耄した親を世話することは生存競爭に於て何等直接の利益がありません。むしろ、生存競爭上老人を抱へて居ることは不利益でありませう。ですから、子が親を世話することは生存競爭上勝利の位置にある者の一種のをごりのようにも思へます。これを人種の見地から見るならば、親から受けた恩は、自分の子を育てることによつて償はれて居るやうにも思へます。そして、老親と自分の子供とを扶養して行くことは

二重の負擔のやうにも思へます。けれども、これを子女の德育、及び、社會の風敎の上から見るならば、其處に無限の好影響があります。

且つ又、文明國に於ける思慮ある老人は大抵自分の老後の用意をしてゐます。其の場合に、老親が我が子に要求する處のものは經濟上のことではなく、心理上の事柄です。此の點はどんなに力說してもしきれません。完全な心理學上の原則と充分な心理的知識を基礎とした本當の意味の道德が私共に敎へる處の方向に從つて家族生活が發達して行く以上、老人が自分の子供の家庭に於て受けることの出來る喜びは此の人生に於ける最も貴いものゝ一つであります。

老人は若い者の爲すことのうちに自分の興味を見出し其處から自分の喜びを得てゐます。子供や孫の生活は老人自身の生活の延長であります。子供や孫が老人自身の職業を受け繼いで居ないとしても、此の延長によつて老人は自分自身の心身の力の償いたのが償はれたと思つて安心してゐます。老人が自分の子供や孫の確實な生活ぶりを

見て滿足することが出來るならば、先づ、人生の最後の一章が最も滿足的に書き終へられた、つまり、最も圓滿な一生を終ることが出來たと云つてよいと思ひます。

けれども、從來の女權主義は、個人としての自分の生活を思ふのに急であつて前にも云つた通り親子關係を輕視し家族生活の發達を阻害し、其のために親も子も夫も誤解や失望や煩悶に陷り、凡ての人が不幸に終ると云ふようなことになりました。

家族問題は重要なる問題であります。人の幸不幸の大部分が其の人の家族關係に於て定まります。家族を生物學的に見るならば、其れは人種の保存と發達とに無くてならない要素ですし、これを心理學的に見るならば、家族間に動いてゐる思想と衝動が人間の精神生活の根本となつてゐるものであります。

ですから、私共が生理的に精神的に充分なる發達を遂げる喜びを持たうと望むならば、過去の人間を支配してゐた古い家族制度に大改正を加へ、現代に於ける青年男女の自由をも認めて其の反撥心を除去し、固陋に囚はれることなく、急進的に脫線する

ことなく、健實に確實に進歩の軌道の上を歩む工夫をしなければなりません。
千古不變の有益な道德と見られてゐるものも、又は、賢明な新しい議論と考へられて居るものも、もし、それが親子の間を離間したり、夫婦の間を不和にするようなものであるならば、それは惡道德であり、惡議論であると私は信じて居ります。

勞働の解剖

經濟的見地からの勞働は、其れが心的であれ體的であれ、其の基礎は自然界のうちにあるのではなく、文明のうちにある。生理的ではなく、心理的の理由によるものである。故に、心的勞働と體的勞働とを區別することは不可能である。

勞働に生理的、心理的、及び、倫理的要素が常に存在してゐる以上、勞働階級の利益のために、體的勞働と比較して心的勞働の價値を低減しようとすることは正當でない。なぜなら、凡ての勞働が心的である。最も單純な體的勞働でも大體に於ては心的勞働である。たとへば、土を掘ると云ふ勞働でも手に鍬を使はせるのは心的勞働で、そして、それが主なるものである。

（純正社會學より）

普通選擧の表裏

一切の社會問題が皆國民の家庭生活の安全と向上を計るものであること。其の家庭生活の保護の任を委ねる處は國家であること。それならば、其の家庭を司ることを自分の職務としてゐる主婦の位置にある婦人が國家に對して發言權を持たねばならぬと云ふことは當然であること。國家が代議政體である以上、婦人をも含めた普通選擧にならねばならぬと云ふことは理の當然であること。等は今迄にも本誌上に於て度々云つて置きました。

けれども、問題は、婦人及び一般人が今日の社會組織である處の共同生活に對する訓練が出來てゐるかどうか？　云ひかへれば政權を有效に使用し得る資格が出來て居

るかどうかであると云ふことも、度々、云つて置いた處です。

普選運動にかゝはつてゐた人々は普通選擧の施行によつて國民の利益が保護出來るように宣言しました。普通選擧によつて、社會の進歩は增進し、新しい思想、新しい發見、新らしい發明、新しい藝術は生れ、國民の生活標準を高くする鍵であると申しました。實に、もし普通選擧と云ふものが理想通りに行はれるならば、さうであるかも知れません。又、さうなることが萬人の希望する處であります。處で、實際は其の理想と隔ること餘まりに大であります。

普通選擧は唯に現代のものではありません。隨分古くからあつたものです。けれども、大抵の場合、理想通りに行はれてゐる處ではなく何かのために利用されてゐました。昔、アゼンでは政治家と貴族との間に爭ひがあつて政治家が負かされた時に、其の政治家が貴族に對する復讐をするために普通選擧を施行しました。又、佛蘭西ではあの恐怖時代の後に、既でに實施されてあつた普通選擧を廢し、それから又後に復活

しましたが、それはナポレオンが普通選擧の上にタイラニーを行はうとする計畫でありました。獨逸に於てもビスマーク時代に普通選擧が施行されましたが、それも矢張りビスマークが自分自身の力を確實にしようとする野心からでありました。そして、其の心理は昔も今も同じです。

其處で政治哲學者や、本當に國家を思ふ眞の意味の政治家にとつては、普通選擧の價値は、今は、餘程下落して居ます。前にも云つた通り、國家が代議政體である以上婦人を含めた普通選擧になるのが當然でありますが、併し、本當の意味の政治を解さず、共同生活の訓練の足りないものが持つて居る政權はいつも政黨の黨利のために利用されることになるのです。多くの場合ひ普通選擧は國民の利益となる代りに野心政治家の食物になるので、心ある人は其れを恐れるのです。つまり、普通選擧は各人平等の基礎を造る代りに、恐しいタイラニーの基礎を造ることになるのです。

生きた社會の事柄は理論一片ではどうにもならない。一朝一夕で理想境を現出し得

るものでないと云ふことは新獨逸が好適例を示して居ます。

世界中で獨逸程、社會主義の實行に付て研究され論議された國は外にありません。そして、最近の革命によつて獨逸では帝政を倒し社會主義の國家を設定しました。何しろ、大戰後のことでありますから、いろ〳〵の困難があることは誰でも豫想して居たのですが、少なくとも、社會主義の中心となつてゐる産業の社會化と云ふことは着々實行されるものと皆信じてゐました。

處が、さて實行に移そうとすると、つまり、産業の社會化の第一歩に入ろうとする時に當つては、其の社會化に對する議論が百出してどうにも動きが取れないと云ふ狀態に陷つてしまいました。そして、社會主義と云ふものはまだ〳〵昔日と同じように單に想像の國にのみ屬するものだと云ふ感を深くしてゐます。社會黨が政治の實權を獲得しても經濟上の問題、殊に、目前の經濟問題に付てどうにもこうにも動きが取れなくなつた事實を見て、社會黨の反對者は得たりかしこしと盛んに攻擊の矢を放つて

居ます。で、其の攻擊は正しいか？　正しくないか？　云ひかへれば、攻擊されるような事實があるとすれば、其の事實とは如何なるものであるか？　今日の場合ひ、私共にとつても其れを明らかにして置く必要があります。

獨逸に於て、政權が社會黨プロレテリアの手に落ちた其の瞬間に、其のプロレテリアの指導者達は、獨逸國民の經濟生活を組織的に進步的にするには如何なる政策を摘要すべきかと云ふことに付て、意見の一致を見ることが出來なかつたのです。勿論・彼等は社會主義の目的に關しては精通してゐる筈です。且つ又、經濟的發達の進み行くべき方向に關しても充分了解して居る筈です。けれども、不幸にして、其の方向に向ひ、其の目的に達するにはそれ〴〵の順序を踏まねばならぬことに關し、及び産業を社會化することの詳細に關し、全く、無知であつたからです。政權を得たにも拘らず、其れを充分利用することが出來なかつた原因は全く其處にあつたのです。

獨逸の社會黨は、あの最近の革命が起つた時に、いはゞ産業の社會化の問題を不意

に投げつけられたようなものであつたのです。其の革命は彼等が久しい間慾望して居たものであるにも拘らず、いざ、其の革命が起つて實權が自分等の手に落ちた瞬間に彼等は戶まどいしてしまつたと云ふ狀態に陷つたのです。

で、これは、國民に其の用意がないのに普選を施行すること、婦人に其の資格がないのに參政權を持つことに、全くあてはまる問題なのです。

一體、一國家の組織は、人爲が其の進化を補足して行くことこそ必要ですが、併し其の根本から人爲をもつて左右しようとする處に恐しい害惡が醸されます。一定の進化の順序を經ずして一足飛びに理想境を實現しようとすることは、唯、單に、紛糾に紛糾を重ねることになるのです。

淺薄な、唯單に、表面の事實しか見ることの出來ない人々は、過去の大なる社會變化のどれもこれもが、恰も、不意の出來事であつたかのように思ひ込んで居るのですが、決して、さうではありません。皆、一定の順序を經て其處に到達したのであるこ

とを注意深い觀察家は皆認めてゐます。

一國家のうちに大變化が起るには常に二方面の發達が必要です。其の一ッは經濟的發達其れ自身であり、そして、もう一ッは、政治的發達であります。そして、其等の發達を心理的に認めること、つまり、指導者によつて其れが一般に了解せしめられて居なければなりません。一國家のうちの革命、則ち、大變化は經濟的社會的及び政治的變化が徹底的に同時に起つた時、つまり、經濟的及び社會的狀態が充分に熟してそして政治的變化が完全に仕遂げられるのであります。

選擧權の擴張、殊に、普通選擧の主張は革命的の主張であります。で、其の主張が通るか通らないか？　そして、それが有効に使用されるか、されないかは、前に云つた經濟的及び社會的發達が熟して居るかどうかによるものです。

普通選擧を施行しようと云ふのは、今日の政治よりも、よりよき政治を實現しようとするのですから、普選を獲得する前に今日の政治其のものを先づ解剖して見るのが

其の順序です。感情や黨派心や又は野心のために解剖するのでなく、何處迄も冷靜に科學的に解剖し、事實を明らかにして、これを一般國民に熟知せしむる必要がありまず。今日の既成政黨は如何なるものであるか？　其の政黨は一般國民の意志を代表して居るかどうか？　各政黨の幹部はどう云ふ性質のものであるか？　選擧の時の運動はどんな風に爲されて居るか？　今日の政治の腐敗はどの程度にあるか？　選擧人の名簿と實際の投票の數がどう云ふ割合ひになつて居るか？　政黨と公人との關係はどう云ふ風になつて居るか？　又、今日迄の立法はどの邊迄輿論を代表して居たか又は更に代表して居なかつたか？　或ひは、又、一般國民の利益を無視して如何なる不公立が行はれて居たか？

こう云ふ事柄を詳細に調べた上、さて、かくの如き事情であるから、我々國民は普通選擧に訴へて改良に着手しなければならないと云ふ時には何處からも反對の聲の起る理由がありません。云ひかへれば、實際政治の確實な一切の事實を出來るだけ廣く

國民に知らしめることが、普通選擧、則ち、政治革命を成功せしむる當然の順序であります。

勿論、今、私共の目の前に横つてゐる我が國政界の實情を一般國民に知らせると云ふことは困難なる仕事には相違ありません。知識を普及することの如何に困難であるかと云ふことに付てウォードは、『米國は世界中で普通敎育が最も進んだ國である。それにも拘らず今日迄に人間の努力によつて創造された知識の五萬分の一を十萬人のうちの一人が所有して居るに過ぎない。』と云ふことを立證してゐます。

智識を、又は事實を一般國民に知らしむることは困難には相違ないですが、併し最高知識の多くを、又は確實な事實を多く知れば知る程、國家は進歩します。政治の改革の成功不成功も、政治知識を國民の大多數が握つてゐるか居ないかによつて定まるのです。けれども、毎年々々政治季節になると必ず始まる野心家や煽動家の言說や、片手落ちの立證などに惑はされてはなりません。

普選實施の後にはいろ〳〵の方面にいろ〳〵な結果が現れて來ることは想像出來ますが、其のうちの重大なる結果の一ッは、長年かゝつて築き上げられた社會制度の大部分が破壞されることであります。

破壞はしたが、さて、其再建設をどうしようと云つて當惑して居る實例を私共はいくつも〳〵見せつけられて見るのですから、私共は其の實例を無駄にしたくないと思ひます。

普通選擧に、先づ、無くてならないものは普通敎育が普及し、情操及び輿論が或る程度迄に一致して居ないことには、普通選擧は弊害あつて利益のないことを殘念ながら認めなければなりません。

五人か十人の婦人が集まると直ぐに感情の衝突が始まり、文明的な最も公平なる權利の要求なる普選運動には必ず野蠻的ななぐり合ひが始まるようでは、國民全體の利害を左右する政權がもし獲得出來た場合ひに——どう云ふ風に使用されるか？　誠に

心許ない極みであります。

そして、これは、我々日本國民には、まだ、普選を及び婦人參政權を認むる資格が出來て居ない證據だと云はれても返へす言葉がないと思ひます。

云ひかへれば、大改革と云ふものは前にも云つた通り、人爲ばかりで行はれるものではありません。大改革の氣運が熟した時には如何なる人も如何なる國體も其れを防止出來ないと同じように。殊に、革命は腕力を以て行はれるものではない腕力が革命を援助したことはあるが、併し、腕力が革命を起したと云ふことは斷じて無かつたことを付け加へて此の稿を結びます。

> 放つまじく握れるものゝある如き
> 小さく堅き嬰兒の拳よ
>
> 草問判二



最近の世界思潮

青年時代の快樂主義

哲學上の理論に於て、快樂主義を肯定する者は今は殆んど皆無である。けれども、文學及び實際生活に於ては、快樂主義は依然と優勢である。

快樂主義が優勢であるのは社會が病氣にかゝつてゐる症候である。つまり、社會の衰頽に歸因する幻滅に對する一種の氣分の反動である。

そして、こう云ふ氣分が優勢であるのは現代に於てばかりではない。ギリシャにもローマにもあつた。則ち基督教が世界的の力となつた時代、又は文藝復興時代、及び又、產業革命時代、其の外戰後の狀態等に於て、いつも其の氣分は釀造されてゐる。

一言で云ふならば、快樂主義の文學、快樂の生活に人心がひきつけられるのは道德上の無政府狀態にあつて、迷路に立たされて居るからである。で、此の狀態にある間は人は決して進步の道程に入る

ことは出來ない。

(レーナ●ラッフエルソン)

コントの政治及び社會哲學

コントの哲學が世の中に現れたのは丁度現代のように精神的にも物質的にも人心が迷路に立つてゐて其の進み行く方向を知らない時であつた。いろいろの學問はあつても、それが更に人間を導くことが出來なかつた。つまり、學問に統一がなかつたのである。

或ひは、學問の不統一が國民を不統一にしたと云つてもいゝ位だつた。其のばらばらになつてゐる學問を統一し、そして、人心を導くに足る哲學組織を考へた人がコントである。

で、今日の狀態は丁度コントが現れる前の狀態と酷似して居るので、此處にコントの哲學の要點を擧げて見るのも無意義ではあるまい。

コントが社會哲學に貢献した主もなる點は、其のオリジナルな新しい社會學說の發見と云ふよりも、むしろ、彼の綜合力と組織力であつた。そして、彼の根本的方法學は、實證的觀察、實驗、及び、比較を應用して、人智の延長を計るべきだと云ふのであつた。故に、コントの社會有機體說は類似ではなく實體であつた。そして、社會學は社會秩序と進步の學問則ち、社會現象の學問であり、從つて、それは二ッの部問、社會靜學と社會動學となり、そして、社會學は未來の完成さ

れた政治學であると、云つた。

コントの政治上の主もなる學說を擧げて見るならば、（第一）社會と云ふ複雜なものゝうちに、一ッの要素として國家を社會的に見ること。（第二）國家の有機體說（第三）國家は社會上の必要上生れたもの、國家活動の範圍も亦國家の必要によつてのみ決定されると云ふ意見（第四）法律を超越した制裁、則ち、社會制裁の必要を認めること。（第五）社會改良の方法は、人間性の根本的性質と社會學の原則に、從はしむる必要を認めること。（第六）與國の歷史的過程を綜合的に見ること。等である。（バーンス）

進步の法則

進步と云ふ觀念は思想と云ふ觀念と同じように古いものである。十八世紀に於ては歷史の法則と云ふことが進步の觀念であつた。そして、其れが十九世紀に於ける一般の進步となり、今日の思想界を貫いてゐる。けれども、よく、解剖して見ると其の觀念は式に書いて見ることも出來ず、ツイには消へてしまう。そして後に殘るものは、唯、一ツの理想である。（フイッパトリック）

進步の問題

進步は理想的な、けれども、一定した目的に對する繼續的な步みであつて、それは西洋文明の主權的思想であるが、併し、それは科學的であることによつての

み實現する。

政治的、社會的、及び、産業的の關係に於て、傳說にひきづられたり、實際上の利益にのみ餘まりに心醉し過ぎたり、私利にのみ沒頭したり、批評的研究を怠つてゐるならば、其れは進歩を逆行せしむるものである。（ダドリアン）

革命の理論

革命は不意に起るものではない。革命は民衆が不滿を感じて居る狀態から除々と成長するものである。故に、革命を了解しようとするならば其の革命の根を養つた以前の歴史を研究しなければならない。

革命的精神は樂天的である。何となれば、現存の政府を破壞すれば、よりよき政府が必ず建設されると信じてゐるから。けれども、革命の名によつて、一人立ちの出來ない政府が立つては倒れ、立つては倒れした例を我々は餘まりに度々見せつけられてゐる。古い獨裁政治が新しい獨裁政治に代つたに過ぎなかつたのである。

革命的の行爲の特長は不合理であるのみならずモッブである。革命は群集心理の問題に過ぎない。革命は、如何に小規模の革命でも其の影響する處は遠い。つまり、革命の後には必ず人心の不安と退歩が伴ふ。佛蘭西が其の好適例である。革命は、指導者に對する一般の不信用を釀造するもので、それが、指導者の交代

を烈しくし、そして、それが退歩を齎すのである。（フイル●カンデツト）。

性慾の抑制と否定

青年女子が最近迄研究されなかつたに付ては其の理由が二ツある。其の一ツは青年女子と云ふものはツイ此の頃迄學界の問題ではなかつた。女子の學問と云ふことに付ては、人は全く考へても居なかつた。で、もう一ツの理由は、過去に於ては、女子は説明の出來ない現象、解決のしようのない謎であつた。が、此の頃になつての研究の結果、青年期にある男女の心理的の區別が稍明らかになつた。

青年期にある男子の生活を支配するものは性慾と、それから、ニーチエの所謂『ウイル●ツー●パワー』であるに反して、青年期にある女子の生活を支配する主もなるものは生殖の役目に密着な關係あるものである。

普通の場合ひ、女子は男子よりもより献身的で、より服從的である。そして、偶々、ウイル●ツー●パワーによつて支配されて居る女子は多くの場合、性の墮落者となる。

女子に於ても、男子に於ても、性慾の抑制は自己を高尚化する手段である。そして、これは社會的に望ましいことである。これに反して、性慾の否定は其れが逆に行く場合がある。そして、性の墮落となる。であるから、性慾の否定は社會的には排すべきものである。（クラーレンス

●チャーチ）

犯罪問題としての私生兒の母

私生兒の母のタイプは例外を除いては（第一）精神的に異常ある者。（第二）保護者なき若い娘。（第三）本人に缺陷は無いが虚の約束に誑されたり、或ひは性慾の衝動に誘惑された者。（第四）犯罪者、等である。

で、これを防止する社會的の方法は、精神に異常ある者には適當なる保護を與へ、性の衞生に關する敎育を授け、娯樂場を安全にし、健全なる仕事を與へ、必要なる制限の下に、再び、敎育し直すことである。

一人々々の場合が、皆、別々な狀態の下に私生兒を生んでゐるのであるから、從つて、皆、別々な方法をもつて取り扱はなければならない。けれども、私生兒の母は大抵の場合年が若い。そして、知力は劣つて居て、精神錯亂の徵候がいつも潜在力として重要なものとなつてゐるであるから、其の精神がノーマル以下である若い女子には適當な保護を加へることが最大急務である。それから、又、凡ての私生兒の母の中の半分は何にかの犯罪人であると云ふことも記臆して置く必要がある。

不熟練勞働者のうちから多くの私生兒の母が出る。で、彼等の家庭はアブノーマルで生活の標準が低い。これも私生兒の母を造り出す有力な原因である。そし

て、かような母から生れた子供は、落ち付きのない悪い遺傳を持つて居る上に、有害な環境に取り卷かれて成長すると云ふ不利益がある。（ランドベルグ）

兒童保護問題

兒童保護は、今や、一種の社會運動である。そして、其の取り扱ふ種類は、他家に厄介になつてゐる者、缺陷ある者、私生兒、及び、不良少年等である。で、最も有効なものは中央政府の機關と共同して働く個人の組織した機關である。

（合衆國兒童局）

日本の家族制度

日本の家族制度の弱點を擧ぐれば、（第一）女子を低い平面に置くこと。（第二）離婚の數の增加すること。（第三）人格が破壞されること。（第四）母を奴隸的にすること。（第五）發明心を鈍らすこと等である。又、其の特點を擧ぐれば、（第一）統一の發達。（第二）家族の共同。（第三）個人を外部の誘惑から救ふこと。（第四）親孝行の發達。（第五）家庭の繼續。等である。

（ワイ●カミイ）

婦人の呪ひ

多くの婦人の惱みは、參政權がないと云ふことよりも、子供を生み育てると云ふ本能を押へ付けられてゐることだ。彼女達は、子供は生みたいが寄生虫になることを好まない。であるから、子供を生

むことを抗むことによつて寄生虫になることを逃れてゐる。そして、其の結果は良種の子供が減つて悪種の子供が殖へて行く。

婦人が子供を生み育てる本能を押へ付けられて居ることは婦人自身の呪ひであるばかりでなく、社會の呪ひである。

（コルビン）

『心理解剖』と云ふ名稱に對するプロテスト

人の性格を計る組織の發達は全く可能である。そして、其の組織は解剖學を基礎とするのではなく、生理學を基礎としそして、長い、廣い實驗の結果であらうと云ふことは相像出來る。性格を計る組織を造ろうとする嚴密な科學的な努力の結果は、たとへ、それが消極的なものであろうとも、ハッキリしてゐる以上は價値あるものであるに相違ない。

けれども、今迄に、『心理解剖』及び『心理解剖家』と云ふ言葉が迷信的な又はヤブ醫者的な意味を聯想するようになつてゐるからして、つまり、其の言葉が亂用され、汚されてしまつて居るからして其れに對して、純正及び應用心理學を用ひて、此の方面の研究に眞面目な學者の努力に對して一般人の尊敬に價する名稱を用ひねばならない。（ナイト●ダンラップ）

田舍の宗教化

田舍に宗教を普及することは、農夫の經濟上の基礎を堅固にし、正義を設定す

ることである。そして、此のプログラムは充分な社會生活、強き教育組織、進歩の動力である處の高尙な理想主義を含むべきである。

要するに、田舍の人の社會的自營と、世界觀を發達させると云ふことであつて徒らに、宗敎の信仰箇條を說くことではない。（ケンヨン●バターフイルド）

世界平和の基礎

現代の君主は感情に於ては國際の友誼を希望しても、心は平和の方に向つて居ないので、それが現代人の不滿の原因となつてゐる。今日の產業、及び、社會上の不調和は此の矛盾に原因してゐる。國際間のもつれは餘まりに複雜に。產業及

び經濟上の危機は餘まりに近く迫つて來てゐる。其の結果、國民は世界の實情を摑むことが出來ない。且つ、又、國民は勇敢にして完全な指導者の少ないことによつても苦しんでゐる。

國際間の平和は、世界各國民の心が前もつて平和に傾いて居なければ實現しない。歐洲の經濟上の崩潰はベルサイユの條約の再考察を暗示してゐる。國際聯盟は純粹に平和な心を基礎としなければならない。佛蘭西のみが平和の反逆者ではない。（ホルホールド●ナイト）



祖先崇拜の米國

山田嘉吉

始めて外國を旅する人は無感覺で通つてしまうかも知れないけれども、外國の空氣を長く呼吸した者が米國を旅して受ける不愉快な氣持ちは、我々日本人が或ひは東洋人が歐洲人とは別な取扱をされることである。歐洲人に對しても幾分の卑下はあるが併しそれは、歐洲人が米國化する迄の間のことであるから、それは先づ無いと云つてよい程度のものである。

米國に於て、支那人排斥問題が起つて以來米國人は東洋人を毛虫のやうに嫌つてゐる。一般米國人が東洋人に對して侮辱的な態度をしたり、罵詈的な言葉を發したりすることは實に心ある者の耐へ忍びきれない處である。外交上の問題に於ても時々それが露骨に現れてゐる。

一體、米國人は非常にお國自慢な國民で、世界中の何處の國も米國よりは劣つてゐると信じて居るが、併し其の自慢する理由を解剖して見ると、つまり、自分の國が何處の國よりも富んで居ると云ふことである。そして、其の富は自分等の力で創造したものであるかのような顔を

してゐる。則ち、其れが米國人の米國人たる處で、彼等の富は天の賦與したもので彼等の腕前が造つたのではないと云ふ處に氣付かぬのだ。第一、米國固有の米國人と云ふものが存在しないと同じように、米國と云ふものも、其の無限な天然の富より以外には存在してゐない。

東洋人が米國へ行つて感ずるものは、米國人の失敬な態度の外に、金力と速力と、凡てが大規模であると云ふことである。つまり、高度に發達した物質文明を見せつけられるのである。そして、米國人の發明にかゝるものもいろ〳〵あるにはあるが、併し、米國の都市を通過した人は……もし、彼が歐洲を見て居るならば――其れが歐洲の模倣であると云ふことが分る。

其處で、米國を旅した歐洲人の米國に對する印象は大體に於て二種になる。其の一種は米國の美點ばかりを見て米國を讃美し、米國に心醉するし、もう一種は米國の缺點ばかりを見る人である。前者は米國を米國自身の價値で承諾し、後者は米國人が自慢としてゐるものを卑しめてゐるのである。で、此の二者のうちのどちらが眞實の米國を語つてゐるかは分らないとしても、とにかく、米國と云ふデモクラシーはあらゆる罪惡の源であると云つてゐる人があるし、且つ又、故ブライス博士の如きは、米國共和國を見出すことが出來ないで自分で其れを發明し

ようとかゝつた。そして、さう云ふ非難に對して米國人は『米國の本當の意味の自由と平等と云ふものは奉公人根性の歐洲人などには了解出來ないだらう。』などゝ放語して居る。

米國人は隨分突飛なことをする國民だが、それも要するにふところ都合がよいからである。

曾て、或る人が、米國の外交を肌脫(はだぬぎ)外交と云つたことがあるが、これは確に米國人の氣風をよく見拔いた言葉である。米國人は自由と平等を看板にかけて居るのであるから、他國人のようにみゑを飾らないから、其れが歐洲人には肌脫に見へるのである。併し、それは、唯、表面だけであつて、實は、矢張り、自由なあけつぱなしな行動が取れないので困つて居るのだ。

米國の運命を、政治的に乃至は社會的に豫想するには、禁酒問題に據るのが近道であらうと思ふ。禁酒が嚴密に實行出來ることは米國の革命を意味し、それがゆるむことは反革命の勢力の優勢を意味するものである。實に、もし、禁酒が正確に行へるならば、其れは過激主義の發生である。バナード●ショウからトロッキーに至る迄革命主義者は皆禁酒家である。彼等の理想は酒と戀愛の誘惑を排して其の代りに優生學を用ひようとするのであつた。故に、其の優生學普及の成功不成功も亦米國の運命を豫想する一手段

である。處が、其の優生學もなか〳〵思ふように一般國民に採用されない處を見ると、反革命派の勢力が依然と強いものであることを我々は思はねばならない。

それは無理はない。なぜなら、祖先崇拜と云ふことは、何處の國にも一度はあつた制度で、今は何處にもなく、其れが有効に働いて居るのは日本ばかりであるように一般は考へてゐるが、處で、それは大きな間違ひだ。あのデモクラシーの米國が非常な祖先崇拜國だと云ふならば人は意外の思ひをするだろうが、實に、米國は大々的に祖先を崇拜してゐる國である。

米國人程、祖先を崇拜して居る國民は他に其の比を見ない。彼等は他國人には了解出來ない程の尊敬心をもつて、二十世紀の狀態とは全く異つた狀態に適合させるために造られた憲法を依然と保存し殆んど、神のやうに其れを拜んでゐることや、政府をアンクルサムと稱して家長政治をにほはせたり、ワシングトンを神のやうに祭り上げたり、獨立祭を大々的に祝したり、米國の祖先が英國人を憎んだと云ふ理由で、今、猶、英國人を憎んだりしてゐる。で、要するに、祖先を崇拜すると云ふことが、矢張り米國の最高なる道德である。

それで居て、一方には、個人主義が發達して堅固な政治的デモクラシーを設定してゐる。しかも其の矛盾にはおかまひなく何でも其の主義に反對なものは打ち

倒されてしまう。そして、其の個人主義の成功は廣大無邊の天惠と密着な關係がある。

同じ米國でも南部の方は少しく異つた世界觀を持つて居たのだけれども、併しそれも民主々義的ダーウィン主義の法則の下に負かされて倒れてしまつた。

今の處では、何と云つた處が、米國人は自己の優越を誇つて居るので、正當な議論も彼等の耳には達しないが、併し、一度手强い失敗に遭遇するならば、其の時には自國の歷史及び諸外國の歷史を見て、そして、反省の時期に入つた人が自己の青年時代の馬鹿氣た行爲を苦笑をもつて回顧するような經驗を嘗めるだらう。

つまり、凡ての人間は平等であると云ふことの虛たることは米國に行つて見て一層明らかになるわけである。それにも拘らず、其の道理を悟らずに米國人は其の虛僞の人間平等說を本國に迄も强いようとし、そして、自分は偉大なる不平等不公平を實行してゐるのである。勿論、歐州の貧民窟から米國へころがつて行つてそして、紐育の大新聞の編輯長になつた者があるが、併し、この成功も人間が平等であることの證據ではなく、人間の大きな不平等を語つてゐるに過ぎないものである。で、米國とは金にかまはず敎育を受けた我がまゝな子息で、學校で覺へた理窟を面白半分に試みて幾分かの失敗はあつたが、先づ〱成功した、そして親から貰つた莫大な資金のことは打ち忘れて、自分が一切を造つたように思ひ、自慢して居る、けれども無意識のうちに己れの祖先を崇拜してゐると云ふ一個のやんちや小僧である。

寂しき春

原田琴子

○

今宵の風はあたゝかし
隣り家の窓の灯も
春めきぬ
靜けき樹々
そことなき
のどけさ
くさぐの樂しみは
やがて來む
かゝる夜ぞまして思ふ
わが逝きし子のゆくへを

○

霜どけのみちを
ゆき惱みつゝ
ふと涙さしぐみぬ
何處よりか

子の泣き聲のきこゆるに

○

子が破きたる襖の穴
そのまゝに今ものこる
春の陽はそこに
うら／＼と照る
あはれわが心のいたで
やるすべもなく

○

萌えいづる青き芽よ
いのちあれば

わが逝きし子のいのち
いづこにかもえてあらむ
知られねど
この春のそよ風に
さびしくもたゞひとり

○

うら／＼と陽は照れど
さびしき空
あを／＼と芽ぐめども
さびしき樹々
思へども子はかへらねば

婦人運動者最近の活動に就て

のッぴきならぬ用事があつたり、又は時々無理やりにひッぱり出されて講演にでも行くことの外は年から年中うちにばかり閉ぢこもつて居る私は現今の婦人運動者の運動ぶりを實際に目撃して居るわけでもなし、又、それ等の人々の大部分とは個人的に知り合の仲でもありませんので彼女達に關しての知識は新聞を通じて得るより外に術がありません。

處で、其の新聞の報道は大々的であるにも拘らず大抵の場合必ず侮蔑、嘲弄、つまり、ちやかす氣持ちが、含んでゐます。で、これは私の單なる臆測かも知れませんが、もし、新聞記者が眞面目な心持ちであるならば、唯一つの新しい出來事として簡單に報告して置く處を、相手が若い女性である處から、いたづら氣分になつて面白半分に取り扱ふ。言ひかへれば大々的に取り扱ふ價値がないのを承知の上で、唯おもちやにして遊んでやれと云

ふ氣持ちだらうと思はれます。

亞米利加の婦人參政運動が白熱化してゐる時に諸大新聞の第一面はあらゆる重要記事を押し除けて婦人參政權運動の記事をもつて埋めて居ましたが、それは皆金の力であつた、つまり新聞記者が婦人運動者に買收されたのであつたと聞いた時に餘りいゝ氣持ちはしませんでしたが併し、我國では其れより一層ひどい。婦人運動者達は米國婦人のやうに新聞記者を自分等の手のうちにまるめ込む金力はなく——勿論それが卑劣な手段であり眞似るべきことではありませんが——却て矢張り永年の間の最も惡い習慣であつた則ち男性の玩弄物としての女性として婦人運動者が取り扱はれてゐることは心ある婦人達が泣いても／＼泣ききれない程痛ましい情けない狀態であります。

其處で、これは單なる私の望みで終つてしまう事柄であるかも知れませんが、せめて權威ある大新聞だけでも、婦人問題及び運動に關する記事を婦人記者の擔任として頂きたいと思ひます。さうすれば男性記者のおもちやにされると云ふ悲慘事だけは逃れられます。

婦人運動者及び運動が男性新聞記者のおもちやにされるばかりでなく、世間の大部分の人も一種の憎惡の念を含めて横目で其れを眺めてゐると云ふことも亦否定出來ない事實であります。婦人運動に對して『理窟としては何にも云ふべき處はないが併し不快だ』と云ふ感情が可な

り濃厚に存在してゐる理由は本誌卷頭論文に書いて置いたとの外に、運動者自身にも其の責任がありはしないでせうか？　其れは世人の頑迷、又は、偏見の結果として一蹴し去り得るものではないようにも思へる點が無くもないように思へます。

多くの人々のうちには大正の今日猶チヨン髷式の頭の持主もありませう。幾分の偏見も存在してゐるでせう。けれども婦人運動者自身も亦憎惡の念の種子を蒔きはしなかつたか？　おもちやにされるやうな態度をして居なかつたか？　遺憾ながら、さうでは無かつたと斷言し兼ねる節もあるやうに思はれます。そして、これは全體としての婦人の位置の向上に對して一つの大きな障碍となります。全體としての女性の價値の下落となりますから。

何千年來の男尊女卑の弊風が一朝一夕に改まるものでないことは誰にでも分つてゐます。婦人が失つてゐる其の本來の位置を贏ち得て男子と同じやうな尊敬を社會から受けるやうになるのは、今、母の位置にある婦人が聰明な母としての有資格者であつて我子を男女平等に育て上げ、殊に男の子には女性を尊敬しなければならぬ理由を教へるのではなく女性尊敬の念を彼の本能のうちに植付けることによつて初めて男女の平等が徹底する、つまり、氣が付いてから一時代を待たなければ理想は實現しないと云ふことは今迄にも機會のある度に私は云つて來まし

たが、とにかく、其の外に今私共が同性の利益のために努力を要する點は前に云つた婦人運動に對する世人の理窟と感情の間の懸隔を除去することであります。で、どうすれば、其の理窟と感情の間の懸隔が除去されるでせうか？

たとへば、此處に一組の夫婦があるとします。それが兄妹であつても同じですが。夫は妻を兄は妹を從來の習慣によつて自分よりは弱者だと思つてゐます。そして事實又あゆる點に於て弱者であつて夫の又は兄の保護がなければ生存して行けない狀態にあるにも拘らず彼女が『人としての權利』をとか『女權の擴張』とか叫ぶならば其の夫又は兄は片腹痛い思ひをするでせう。これに反して弱者だと思つてゐた妻又は妹がなか／＼シッカリ者である。何をさせても自分と同じやうな能率をあげ得る。けれども在來の習慣が又は現存の法律が彼女達をして其の能率をあげさせない。これは不合理だ。と夫又は兄が感じたならば彼等は彼女等の要求が無くても彼女等の人としての權利を認め其の人格を尊敬し、そして、其れを延長して女性全體の權利の擴張に對して理窟でばかりでなく感情に於ても双手を上げて賛成するに極まつてゐます。

處で、今日の實際狀態は、婦人運動をおもちやにしようとか又は何かためにしようとする者以外の男子の大部分は皆『片腹痛い』思ひをしてゐるのであつて、双手を上げて賛成するつまり理窟と感情

を一致させて居る男子の數が餘りに少いのであります。

ですから、私共は、社會に向つて女權伸張の聲をあげる前に先づ自分に最も密着な關係にある男子を自分に敬服させる必要があります。三千五百萬人のうちのせめて千萬人の婦人が自分と密着な關係にある男子の尊敬を贏ち得たならば、其の時には女權擴張に對する世人の理窟と感情の間の懸隔が除去されると私は信じてゐます。

現代の自由思想の元祖であるルソーは婦人を男子の玩弄物乃至道具視してゐました。それは彼の接近した婦人が玩弄物乃至道具丈けの價値しか無かつた婦人であつたからだと私は思つてゐます。これに反してミルは其の當時婦人論を高唱するには非常に困難な不利な狀態にあつたにも拘らず、學識才能の豊かな立派な人格者である自分の妻が女性の故に人權を拒ばまれて居ることの不條理に耐へ兼、あの名著『婦人の服從』の出版となりました。ミルが女權史の上に大きな足跡を殘したことは全く、人格高きミル夫人の感化であつたことを私共は忘れてはなりません。

婦人が自分の接近する男子を男性全體の代表者と見るやうに、男子は自分の接近する婦人を女性全體の代表者と見ますですから、各婦人は自分の背には女性全體が喰付いてゐると云ふことを心に置いて日々の行動を執り、自分に直接關係あ

る男子に見下げられないやうになつて、それから後に女性全體の權利の伸張を叫ぶならば其れは本當に有力なものとなります。けれども、それだけの用意がなく實力の伴はない單なる思想を振り廻して婦人運動にたづさはる時に、其の運動は男性新聞記者のおもちやとなり、世間の侮蔑、嘲笑の的になるのだと私は思ひます。

英國に於ける婦人運動の成功は表面に立つて活動した婦人達の力と云ふよりもむしろ、其の裏面に居て默々として實力をあげて居た充實した婦人の力であつたのです。何處の國の婦人運動でも又、どう云ふ種類の運動でも其れが成功するには其の運動の背景に必ず充實した實力が存在してゐたものであることを此處に附け加へて置きます。

新刊紹介

◎近代の小說　田山花袋著

文壇に批評家は多いが、さて數十年の複雜した文壇を大觀して、縱横に批評の筆を揮ひ得る人は尠い。

殊に文壇の耆宿花袋先生の、この書を得たのは今春劈頭の一大偉觀であり、讀書子の一大歡喜である。實に本書は過去五十年の文壇的生涯に於て、先生が親しく體驗し接觸した藝術運動の秘史秘錄であると同時に、凡そ近代の小說と呼ばれるものは、最近新進作家の諸作に到るまで、皆解剖臺上に載せられてある。

批評ではあるが、印象記風の興味深い記述である。（東京神田區中猿樂町一七近代文明社）



女學校卒業期にある娘を持つ親心

「はへば立て立てば歩めの親心」と歌はれてある通り本當に親と云ふものは子供が大きくなればなつたゞけづゝ其れだけ苦勞も大きくなつて行くにも拘らず、さう云ふことは一切忘れて唯ひたすらに子供か成長して行くのを樂しみにしてゐますが、蓋し、其れが大自然の命令だからでありませう。

また、もの云はぬ幼兒である時分には子供が早く自分の希望や感情を云ふやうになつたらどんなに嬉しいだらうと思ひます。殊に子供の體の工合ひが惡い時など、親はどうすればいゝか殆んど途方にくれて、せめて、「此處が痛い」とか「此處が苦しい」とか云へるやうになつたらどんなに助かるだらうと考へます。そして完全にものが云へるやうになると「此の子がもの丶道理をわきまへるやうに早くなつて呉れたら」と實ひもの丶道理が分るやうになると今度は「早く一人前に押しも押されもせぬ人間になつて貰ひたい。」と斷ります。私は今丁度此の最後の時期にある子供の親となりました。昨年の暮に私は水仙の球根を一鉢買つて來て日當りのよい緣側へ置きました。二月に入るとそれが花盛りとなつて香ばしいかをりを室内へ送りました。けれども、それが最初ポッチリと青い芽をふき出した時分には其の球根は大きな眞白なまるまるとした姿を

して居りましたのに反して其の芽が育つて大きくなるに從つて球根はだん／＼と凋びて行き、花盛りになつた時は小さくどす黑くちゞかまつて以前の形は全く失はれ、唯單に葉と花の莖を支へる臺に過ぎないと云ふ恰好になつてしまいました。そして、私は此の水仙の花と球根の關係が人間の親子の關係であることをつく／＼感じました。

それで個人主義的な考へを持つた人、つまり、自分自身を本位として考へる人生觀を持つた人は子のために自分が犧牲となることを馬鹿らしく思つて、何とかかとか理窟を云ふのですが、さて、我が子を持つて見ると全く理窟なしになつて矢張り世間普通の親と同じやうな感情の持主となり、子のために自分の心身を削るやうなことになるのですから面白いものだと思ひます。どんなに理窟がお上手でもやつぱり大自然の命令には柔順になるのですから不思議なものです。

子供の教育に付てゞもです。今、まだ、幼い子供を持つてゐる極く少數の人は『自分の子には今の學校教育などは受けさせない。』と云つて威張つてゐますが、實は私も自分の子供が幼い時分にはさう云ふことを考へました。併し、子供が學齡に達して見ると中流以下の人間にはとてもさう云ふ藝當は出來ないことが分ります。なぜなら、學校教育を受けさせないとなると家庭に於て學校以上の成績をあげるだけの教育をしなければなりませんが、併し、其の日々々々の生活費を稼がなければならない狀態にある親は到底凡ての學課に渡つて教へてやると云ふ暇がないし、と云つて、それだけの家庭教師を子供に付けると云ふことも資力の點で不可能です。其れで、先づ不滿足な點はあるとしても矢張り世間並に學校へ入れて置かうと云ふことになるのです。

勿論、學校で教へられることは、讀むこと書くこと數へることゝ云ふやうな技術であつて、或ひは單なる知識であつて人間としての本質は矢張り親が造らなければならないものです。そして、凡ての親が皆一ツの理想をもつて子供にのぞむのでありますが、併し、親の力ではどうすることも出來ないものがそこに存在して居ます。つまり、子供が持つて生れた性質、云ひ直

せば、何代も〳〵前から受け繼いでゐる遺傳を、もし其れが悪いものであつた場合ひに、親が矯めようとすることはなみ大抵の苦勞ではありません。

もう一ツ親の力の及ばないことは社會の空氣であります。家庭の空氣をどんなに清潔にしても、社會の空氣が汚濁であるならば不圖した親のゆだんから、子供は此の濁つた空氣に犯されます。それで家庭の空氣を清潔にすると同時に社會の空氣も清くしなければならないと云ふ運動の必要も起つて來るわけです。

とにかく、前に云つたやうな氣持ちで私は娘に小學校を卒へさせ、そして、今女學校を卒へようとしてゐます。

女學校は卒業しますが結婚と云ふやうなことはまだ〳〵遠い處にある問題です。我が子をいつ迄も赤ん坊のやうに思つてゐる其の心は所謂親馬鹿の心ではないかと反省もして見ますが、併し、世間の娘さん達がまだ一家をきりもりして行く能力も、お母さんになる資格もないのに結婚を急ぐために結果が面白くない。いゝえ、面白くないと云つたゞけではすまされない、いろんな不都合や悲劇が生れてゐるのを見ても單に女　校を卒業したばかりの娘をまだ〳〵子供であると思つてゐても或ひは不都合ないかとも考へてゐます。

それで、結婚はまだ遠い處にある問題として保留して置いて差し當り考へなければならないことは、そんなら卒業後は何をさせるかと云ふことです。私は、苦しかつた自分の過去を回想して、どうか娘にはあんな苦痛を嘗めさせたくない。全然苦痛のない生活は望まれないとしてもせめて比較的苦痛が少ないやうにしてやるにはどうすればいゝだらうと云ふことを涙ぐましい氣持ちになつて考へます。

もし、本人に何か傑出した處があれば考へる餘地はない。其の傑出した點を伸ばしてやる方法を取ればよいのですが、それがないのでいろ〳〵に考へなければなりません。藝術的才能のない子ですから、知力的の方面に努力させようか？

それとも職業的の手腕を養はせようかと云ふことを考へました。自分の理想とする處の婦人の生活が何であつても、婦人に理想的生活を營ませない現在の社會

あつにては、矢張り、此の社會を基礎に將來の生活の方針が立てなければならず、そして、さうするには何等かの職業に對する能力を養はせて置いた方がよくはないかと考へたり、又は、普通の家庭婦人となるならば圓滿な幸福な生活が送れるのになまなか職業に對する手腕があるために家庭を持つても家庭内に腰が落ち付かず其のために夫も不幸子供も不憫自分も苦しい、そして、家庭を支離滅裂にして苦惱して居る幾人かの婦人を知つて居ますので、娘に全然職業的な修養をさせる氣にもなれません。

あれかこれかといろ〳〵に心を痛めた末、今やうやく決心してゐることは、とにかく、娘の頭を造つて置かうとすることです。或る程度迄の知識を蓄へさせ同時に確實な人生觀を造らせて置くならば家庭婦人となつてもしつかりした主婦となることが出來るし、又は、職業を持たなければならない境遇となつた場合にはそれ迄に獲得した知識を基礎としてどの方面へでも發展して行けるやうにして置かうと考へました。

處で、幾夜も〳〵眠られない程考へぬいた上句やうやく方針を定めて或る學校を選定しても、其の學校へ入れると云ふことが又一通りならぬ苦勞です。目差す學校へ子供を入れることが出來ないと云ふことは無數の親が實驗して居る事實でこれは早晩大きな社會問題とならねばならぬものでありませう。

且つ又幸ひに目差す學校へ入學出來たとしても、僅かばかりの知識を授けて貰ふためにいろ〳〵の困つた弊風に染まると云ふ心配もあります。學ぶべきことをろく〳〵學びもせず、學ぶべからざることに浮身をやつしてゐる生徒が大部分だと云ふ大きな學校があることも聞いてゐます。ですから、自分の理想としては普通教育なる女學校を終へたならば、家庭へ置いて特種の學問を自由にさせたいのですが、併し、學問に付て並びに生活に付て確固とした自覺を持たない未熟な頭では自由に流れてアブハチ取らずになりはしないかと云ふ心配もあります。其の上に、家庭にばかり置いたのでは、世間の同年輩の人達の氣分と云ふものが分らないやうになつて――天才ならば差支へないでせうが平々凡々な人間ですから後に社會に出なければならな

いやうになつた時、非常に不利益な位置に陥りはしないかと云ふ心配もあります。

いづれ何處かの學校へ入れるつもりでは居りますがとにかく、水仙の花と葉が其の球根を喰つて伸びて行くやうに、子は親の心身を削りつゝあります。

議員政治に附て

今日の政治が國民の意志とは全く無關係のものであると云ふことは世間周知の事實です。ですから、私共が議會に對して要求することは、それは唯一種の主觀的の氣やすめに過ぎません。

私共が議會に要求を出すには、こちらでボタンを押せば向ふでベルが鳴ると云ふ風に、私共の意志と議會の仕事との間に連絡が取れて居なければなりません。けれども、今の政治組織はさう云ふシカケになつて居ないので私共の要求は議員達には馬耳東風でありますですから、今、私共が努力しなければならぬ點はどうすれば議員達が私共の要求を聞くようになるかに付てゞす。

議會政治と云へば、國民が國民自身を治める筈のものに定まつてゐますが、併し事實はそれと反對です。どうしたら、議會政治が其の實を舉げ得るかと云ふとそれは要するに、テクニツクの問題で、今の處では政黨と云ふものがあり、これが國民を代表して居るものと信じ、國民は政治の一切を政黨に任して置いて、そして、議員を通じて政黨に注文するようになつてゐます。

けれども其の政黨は國民の意志などはそつちのけで金力腕力又は策略によつて政權を自分等の手に入れ、そして自分等の主張を通さうとしてゐます。そして一黨派の成功は他の黨派の失望と云ふことになつてゐま

すが、それが一般國民とは何等の關係もありません。普選が行はれゝば其の弊が除去されるように信じて居る者も今では澤山ありますが、併し、それは當つてゐません。

で、其の理由は、個人對社會の關係が全く間違つた基礎の上に置かれてあるからです。人は獨立に考へ、感じ、判斷すると云ふ理由で一人切り離した個人を社會の單位と見る誤解に陷つて居るからです。併し、今日に於て、進步した人は、一人切り離した個人と云ふものゝ存在を信じません。

所謂個人なるものは、相互作用によつて創造されるものです。個人は社會の要素であると同時に社會的產物です。故に、個人は個人として社會に直接反動を與へません。相互作用は一方には個人を他の一方には社會を同時に違つてゐます。言ひかへれば、個人對社會の關係は行爲でも反動でもなく一つの無限な相互作用です。

其處で、前に云つた議會政治に於て、國民が國民自身を治めて行くテクニックは先づ政黨の代りにグループ組織にならなければならないでせう。政黨と云ふ死んだ固定した形式の代りに、生きたグループ組織が國民全體の意志と同情と熟した判斷とから成立した政治團體を造ります。さう云ふ團體が出來た時に、始めて私共は私共の慾望を議會に提出し、それが眞面目に取り扱はれるやうになるでせう。

先づ、それ迄は議會に要求を提出することは無駄なことでありませうから、議會に對する第一の問題は議員政治のテクニックの改造でありませう。

編輯の後

◎新潟縣に住む友人草間判二氏のお手紙の中に『慘事も多い中で、露をだに厭ふ大和のおみなへしがふるノルウエーに袖をぬらした、事は最も慘事だ』と云ふ文句がありました。其の後にも凌辱事件がいくつかあつて可なり大きな問題になつてゐますが本號には間に合ひませんでしたから次號（五月號）でなるたけ委しく書いて見ようと思つてゐます。◎矢張り友人の德永保之助氏から、亡くなられた若い奥さんを悼んだ歌が澤山參りましたが、これも本號締切り後でしたから次號に讓りました。◎春も酣になりましたやがて東京は花の都か？ほこりの都か？になります、皆樣の御健勝を祈ります。

教育社會學講話（第二十二回）

組織と制度

制度は社會心のうちに存在する

或る學校が火災にあつてまる焼けとなりました。それを新聞で見た校長の友人が早速校長を訪ねて『あなたの學校が焼けてしまひましたね！』と云ふと校長は『いゝえ私共の學校は焼けはしない』と答へました。そして、其の友人がけげんな顔をして居るのに對して校長は説明しました。『成程、校舎は焼けてしまつた。けれども、私共の學校は火災のために破壊されてしまうようなものではない。』と。そして、日ならずして假校舎は選定され、火災前と同じように授業は始まりました。

制度とは何か？　と云ふ質問に對して、人は直ぐに或る建物を、たとへば、學校と

か又は諸官省のやうなもの丶名を云ひがちです。けれども、校舍が學校と云ふ制度其のものであるならば、校舍が燒ける同時に其の學校は消滅してしまう筈です。校舍が燒けるならば、再建築するなり、又は、他に移轉するなりして、學校は其の仕事を進めて行きます。そして、それが制度です。

或る人は、又、『制度とは其處に關係して居る人々から成り立つて居る』と云ひますけれども、これも當つて居ません。なぜなら、もし或る師範學校の職員から生徒迄全部遠足に行つて、船に乘つた時に其の船が沈沒して一人殘らず溺死したとします。(そんなことはありよう筈がありませんが單なるたとへです。)職員も生徒も一度に無くなつてしまつた其の時だけは其の學校の授業は無くなつてしまひます。けれども制度其のものは消滅したのではありません。又、直ぐに數百の新しい生徒が入學しなければなりません。其の學校を卒業して居る多くの人々も捨てゝは置きません。其の學校から年々新しい敎師の供給を受けてゐた地方の學校でも、だまつては居ません。政府で

は其の學校の費用を旣でに可決してあるでせう。文部省にも其の學校に對する或る計畫が成つてゐるでせう。年々敎育費を納稅してゐる國民もだまつて見ては居ませんしそれから、又、其の學校を當てにしてゐる商人及び下宿屋も何等かの運動をせずには居ない。そして、其の學校は直ちに新しい生徒、新しい職員を集めて以前の通りに授業を始めるに相違ありません。つまり、人は無くなつても學校と云ふ制度は依然と存在して居たのです。

して見ると、學校と云ふ制度は、建物でもなし土地でもなし、又、人間でもないことが分ります。則ち、其の學校を必要と認むる社會心によつて維持されてゐるものであります。ですから、クーレー敎授は『制度とは社會心が一定の形となつて現れたものである』と云つてゐます。

或る事柄に關して人々は最初ボンヤリと感じて居ます。けれども、其の感じが追々と强く、有識となつて、其れを完成するためには資金をも出そうと云ふようになつた

時に、其れが確定した社會心の現れなのです。たとへば、或る町の社會心が或る新しい種類の學校を建設しようとします。すると、追々に有形なものが現れて來ます。始めには建物、其の次には装置、それから、役員、其の次には學課、それから生徒と云ふように。役員の各々は自分に割り當てられた仕事を爲し、其の仕事に付て熟練を積んで行きます。つまり、建物と装置と役員とが共同して其の町の兒童に或る知識を授けると云ふ仕事が續けられます。一定の目的を持つて仕事をするためにこう云ふ風に役員を排列することを組織と云ひます。ですから、制度とは社會生活の組織された一つのかたちであります。

必要と共同

私共の生活の或る必要は共同的努力によつてのみ滿たされるものであります。ですから、制度とは、感ぜられた必要を共同的に滿たそうとするものです。たとへば、軍

隊は、敵を防ぐ必要から始まつてゐます。産業企業は營利を得ようとする人々の聯合した團體です。學校は國民を教育しようとする共同的努力です。

他の方面に例をとつて見るならば、此處に一つの會があるとします。其の會は既に四五十年も續いて存在してゐます。其の月日の間、會の名は同じで、そして、同じ仕事をしてゐます。會員は幾度も〳〵變つて居るにも拘らず、一定の期間に會合しては同じことをしてゐます。そして、其の會の所有する建物も無ければ、財產らしいものも無いかも知れません。其處に永久的に存在してゐるものは、唯、或る形式の組織ばかりです。けれども、其れが會員達の或る必要を滿してゐる以上は永久に存在します。如何なる組織も其れが社會員の何かの必要を滿して居る以上は存在します。

會員は一週間に一度、又は、一ヶ月に一度位しか會合しないし、或ひは、缺席することもあるでせう。或ひは、又、夏期中は長い間會員の會合が實現しないかも知れません。そして、其の場合は其の會と云ふものは會員達の頭の中にのみ存在して居るこ

とになります。つまり、其の會員達の生活の唯一部分だけが其の會に關係してゐることになります。

大きな團體、則ち、或る制度のうちの重要な位置に居る役員でも、其の役員の全生活が其の團體の中に吸ひ込まれて居ると云ふわけのものではありません。其の役員は其の團體のうちに毎日八時間乃至十時間を費してゐるかも知れません。けれども、其の後の時間は他の團體、則ち、他の一制度のうちで費すかも知れません。

ですから、一人の人がいくつもいくつもの制度に關係して生きて居ると云ふことになります。そして、こう云ふ風に制度がいくつもいくつも重なつてゐることが社會を强固にします。で、其の制度が有効に働いてゐる間は、會員は自分の出來心によつて其の制度に變更を來すようなことをしてはならない。なぜなら、一部の變更は全部を騷がすことになりますから。

制度に付てコツフマン博士は申ます。「制度の設定は人々の慾望を滿す方法に關し、

又は、環境に順應する方法に關する社會的自覺である。」と

又、スコット博士は云つてゐます。「完全に近い社會は必ず多くの團體の集合したものである。そして、其の一つ〳〵の團體に屬する個人は、他の團體にも屬して居る人で、自分よりは弱い人々から成つて居る團體に對しては補助を惜しまず、又、自分よりは強い人々から成つて居る團體からは自分が補助を受ける。さうすることによつて社會は益々强固になる。最初は各員がさう云ふ思想を持つて居ないかも知れないけれども、各團體の各員の接觸が烈しくなることによつてさう云ふ思想は發達する。けれども、接觸が烈しくなるに從つて其の關係が複雜となり、諸團體の各員が諸團體の多方面に付ての凡てを了解することは困難になる。けれども、相互扶助と云ふ考へさへ發達して居れば、外のことはそれ〴〵分業にすることが出來る。他の方面のいろ〳〵の異つた思想の發達は却つて團體のために有利である。それを相互扶助と云ふ考へで統一することによつて團體は一層强固になる。」

本誌定價表

一冊	金二十五錢	送料五厘
六冊	前金 金壹圓四十錢	（送料共）
十二冊	前金 金貳圓七十錢	（送料共）

■誌代及郵税は前金の事■御送金の際には振替貯金東京五三六八八番に御拂込みのこと■郵券代用は五厘切手にて一割増■廣告は御照會次第御相談いたします

大正十二年三月二十三日印刷納本
大正十二年四月一日發行

東京四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人 山田嘉吉

東京神田區仲猿樂町十七
印刷人 大杉直次郎

東京四谷區南伊賀町四一
發行所 婦人と新社會社
振替東京五三六八八

□婦人□問題□研究□資料□

婦人と新社會

第一巻 二圓五十錢
第二巻 三圓
第三巻 三圓

合本

總クロース
金字入美本
送料各十五錢

回内容主要目次回

■社會と婦人■文化と文明■家庭婦人と政治■家庭と家屋と文明と■婦人の解放とは■婦人運動の發達と其の傾向■性的教育■男子の婦人論■結婚に對する現代人の態度■婦人の經濟的地位と實業■婦人と社會奉仕■女權と子供■女性の直覺■本能の跋扈から本能の征服へ■米國婦人の生活と婦人參政權■青年男女の交際機關■道德と藝術■新マルサス主義を否定す■男性文明の末路■產兒制限の倫理的批判■小學教員と母性■母性の革命天才、遺傳、環境に附ての考察■スペンサーの婦人觀■再婚に付いて■男女關係と母子關係■健全なる人生觀が現代政治の不安を一掃する■「男らしさ」の定義を變更すべき時■再び家庭の危機に附ひて■集合的育兒法と子供の幸福■不滿と社會主義■オリーブ・シュライネルの死■婦人の心理的創造力の解放■女子高等教育と出產率■革命と人間性■何が流行の浪を造るか■男子の不貞操に限て■新社會の教育方針■社會制裁機關としての家庭■生命の新價値■新時代の戀愛と結婚■時代精神を體得した婦人■女權主義者と產業王との對話■新時代が要求する國體生活■基督教が人心を納め得る一つの秘訣■ルソーと現代の思想家■多數制が眞の民主々義か■科學的態度の缺乏■交換價値と使用價値■婦人問題の社會學的基礎■婦人參政權の贊否■愛の惱みを癒すエレンケイ■適者生存の人道化が我が皇室の萬世一系■人類の希望と婦人■女性の特質と女子教育■太平洋會議の側面觀■新時代の夫の資格■カールマルクスと彼の母■家族制度と個人主義■理想の夫婦■機械と人生■教育と社會良心■能率の限度■軍備縮少と母性保護■婦人から政治家への要求■家庭奴隸から家庭の女王へ■社會生活と責任■最近婦人論の傾向■新聞と責任■家庭の進化■家庭・愛國主義・世界平和■知的婦人の職業■現代不安狀態の原因に就て■人間性と社會生活■人間の生活と動物の生活■逆な不具者と其の婦正■物價調節の鍵■新時代と婦人の位置■婦人思想界の浮標■早婚の弊に關する一考察■其の他數百篇

東京市四谷區南伊賀町四一
婦人と新社會社
振替口座 東京 五三六八八